

<金標準、日本・EUに続き中国の関税リスク低下の思惑・・・>



(出所：オアシス)

日米の関税交渉が15%で合意し、EUも関税交渉では15%で合意するなど、トランプ大統領の関税交渉は10%~15%で落ち着く動きを見せている。またスウェーデンのストックホルムで2日にわたる米中の通商協議開始を受け、市場は8月12日に迫る関税停止期限前に延長できるかが焦点となっており、香港紙では3ヶ月間の延期が報じられているが、確証を得ていないだけに市場は見極める動きを見せている。また関税交渉が進展する中で米国債が売られて金利が上昇し、「金利を生まない金」にとって悪材料となり、またドル高・円安の動きもNY金の高値を抑える値動きに結び付いている。

特に金標準先物は、円安効果にも関わらず先週のピークである16326円を上回る事無く下値を追いながら15892円まで下値を試している。特に米中の関税交渉で、90日間の関税発動延期で再合意する様であれば、市場から関税リスクが低下するなどリスク逃避の需要が後退し、7日の安値15479円に向けた修正の値動きが起こってもおかしくないと思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが下げながら、シグナルを下回り、RCIは短期が下げながら、長期が切り下げだしている。特に日足が10日移動平均線を下回り、40日移動平均線(15792円)に向けた下値模索の値動きに注意が必要に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 1,880,000 円(2025 年 7 月 28 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2025 年 7 月 28 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30) 証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター <https://www.nisshokyo.or.jp>